

宇治市環境保全審議会議事要旨

会議名	令和5年度第3回宇治市環境保全審議会
日時	令和5年12月4日(月) 14時～15時20分
場所	産業会館1F多目的ホール
出席者	<p>委員 松良会長、吉田副会長、松原委員、古島委員、吾妻委員、鳥居委員、居原田委員、魚住委員、中村委員、角谷委員、太田委員、吉田委員、木原専門委員</p> <p>事務局 前田人権環境部部長、雲丹亀副部長、吉田環境企画課長、井上副課長、齋藤地球温暖化対策係長、中尾主任、安田主任</p> <p>傍聴者 3人うち記者1人</p>
<p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p>3 審議事項</p> <p>事務局から、(仮称)宇治市第3次環境保全計画(宇治市地球温暖化対策地域推進計画含む)の初案について説明を行い、次に、専門部会から、前回の環境保全審議会での説明があった、専門部会での審議内容について補足説明を行った。</p> <p>【主な意見・質疑応答】</p> <p>(委員)</p> <p>P18の図の説明に「下記項目ごとの」とあるが、「各項目の」の方が良い。P35下から2行目に「図4-3」とあるが、図4-3はP55にありページが離れすぎているため「P55 図4-3」と入れるべきである。また、P42市の取組に出てくるPPA事業は、次ページにPPAのコラムがあるので「P43参照」とする、又はアスタリスクを入れないと分かりにくい。</p> <p>(事務局)</p> <p>ご意見を踏まえ修正する。</p> <p>(委員)</p> <p>用語集にある「みどりのボランティア」とは、ボランティア団体の集まりなのか、宇治市の緑化ボランティアみどりの会を指すのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>みどりの会を想定した説明であるので表現を精査する。</p> <p>(委員)</p> <p>計画では、市、市民、事業者と3つに分かれて取組や目標が書かれている。市の取組は市が</p>	

宇治市環境保全審議会議事要旨

主体となつて行うのでできると思うが、市民や事業者の取組、例えば P42 では、事業者の取組に「蓄電池の導入を検討します」とあるのは、蓄電池を購入していただきと言うだけでなく、この計画に書くことによって後押しなどをする予定があるのか。

(事務局)

家庭向けには補助を行っているが、事業者に対する補助制度はない。今後、例えば、専門的知識を持つ者が事業所に出向いて省エネ診断やアドバイスを行うことなどにより、太陽光発電等の導入を促進したいと考えている。計画に書いている以上は何らかの後押しをしていきたい。何ができるかは十分検討する。

(委員)

計画に書いたからと言って必ずしも補助を出すことまでは考えていないが、何らかの取組を、目標に向かって少しずつ行っていくということか。

(事務局)

現在、来年度予算について精査しているところであり、その中でどのような形ができるか考えていきたい。

(委員)

議会の中で言ってきたことが、さもできるかのように書かれた計画になっているが、本当にできるのか。書かれているからには財源を担保した上で実行してほしい。

(事務局)

計画期間内には様々な取組が出来ると考えており、取組を実行していきたい。

(委員)

10年ほど前は、環境というと排水や排水設備のこと、また、緑のカーテンに取り組んできた。毎年、宇治市の環境フェスタに出展していたが、8年前、団体として緑の活動や清掃活動を続けているのに協力を断られたのはショックだった。今後、環境に協力する企業、会社、協会、特に蓄電池やソーラー関連が出てくるだろう。市は色々やってくれるという話も聞くが、こうした協力業者に対して市は冷たいと感じる。7年位前、槇島町に建てられた府の住宅はソーラーがついておらず省エネ仕様ではないのに、今後はやりますと言うのは疑問である。書いている限りはやっていかなければならない。あれもこれもやると書いてあり、2050年までにここまでできるのか不安がある。P69、70のバイオプラスチック等はエネルギーの問題ではなく、海を汚してはいけないという環境の問題で、先進国は留意すると思うが、まだまだできない国もある。これは国が行うものかと思う。バイオマスのこういうものは土に還るといことが小さい子どもにも分かるところまでやってほしい。具体的な話と、全て行う

には予算が不足するが、これくらいまでなら出せるという話がないと、書いたことが夢になってしまう。

(事務局)

計画については全体の流れを書いているが、今後、計画をもって具体的に取り組んでいく。市では今年度から小学5・6年生を対象とした親子で学ぶゼロカーボンツアーを実施しており、小学生などの若い年代から環境教育を行いたい。

(委員)

実効性のある計画とするため、ひとつは、他人のふんどしを利用して相撲を取るということがある。例えば0円ソーラーは1円も費用を出さず太陽光発電をつけてくれ、仕組みにもよるが10年後には自分のものになる。金銭的な支援より人手はかかるが、なぜ、この仕組みが成り立つかを住民に伝えることにより、補助金という形でなくても進められる。同様に、今、国は力を入れて断熱窓の導入を支援している。定額の補助が出る非常に得な状況であるが多くの人は知らないし、事業者が奨めると疑わしく思われがちである。市が丁寧に説明し、事業者の収入を上げるためにも一緒になって広報してほしい。予算化しなくてもできることに力を割いてほしい。二つ目は他部局との連携である。例えば、福知山市は市営住宅の建て替え時は高層化して ZEH マンション基準とする。高層化により空いた土地には全て ZEH を建て、ゼロエネルギー街区を作る。宇治市でも脱炭素が目に見える取組ができると良いが、環境部局だけではできないので他部局と一緒に行ってほしい。三つ目は、地域の事業者や市民が自分事とできるかである。市の支援は必要だが、市が全ての事業所や家庭の対策を考え、手立てすることは難しい。そこで、「あなたの家庭や事業所では2050年までにどうやってゼロにするかを考えてほしい。その際、どんなサポートが必要かを言ってほしい。」という形をとるとよい。事業所毎に実情が異なり市では現状が分からないので、全てを市が考えるのではなく、一緒に議論し考えてほしい。

(事務局)

積極的に予算を使って実施する部分と、あまり予算をかけず広報を重視するところがある。脱炭素プロジェクトチームを昨年度から発足しているので、庁内をあげて取り組みたい。

(委員)

他の自治体の審議会では事業所の委員が非常に進んだ話をしている。例えば、「Apple との取引のため、再生可能エネルギーを 100%(RE100)としなければならない。どうしてやるかを考えている。」といった発言が出ている。行政より自分のビジネスとして動いているところが多い。市民・事業者にも、補助がなくてもできることと国などの補助があるとできることを考えてもらうとよい。計画を作り市民や事業者の理解を得て進めるより、「こういう方向に動くためにはどうしたらよいと思うか」と投げかけると、小中高生や大学生らはアイデア

宇治市環境保全審議会議事要旨

を出してくれる。宇治市をどうしていくかを市民や事業者を考えてもらう。これを浸透させることに力点を置くべきではないか。

(委員)

パブリックコメントはどのように行うのか。

(事務局)

議会への報告後12月末から1か月間パブリックコメントを実施する。市内の公共施設に、今回の意見等を踏まえて修正した初案と意見書を置き、HPにも掲載する。市内在住、在勤、在学の方に意見をもらい、結果については公表する。

(委員)

公共施設に置いて、皆さんから意見を出してもらえるのか。

(事務局)

市では様々な計画を策定しているが、一定数の意見はいただいている。

(委員)

公共施設に置くだけでなく、一般的にはホームページからメールでも回答できる。
今回の意見を踏まえ、次回の審議会で初案を提示する。

5 閉会